

宿データ

加仁湯

■住所: 栃木県日光市川俣871
 ■Tel: 0288-96-0311 ■全48室
 ■料金: 1泊2食 15,150円~
 (消費税・入湯税込)

八丁の湯

■住所: 栃木県日光市川俣876
 ■Tel: 0288-96-0306 ■全22室
 ■料金: 1泊2食 12,250円~
 (消費税・入湯税込)

手白澤温泉

■住所: 栃木県日光市川俣870-2
 ■Tel: 0288-96-0156 ■全5室
 ■料金: 1泊2食 16,650円~
 (消費税・入湯税込)

日光澤温泉

■住所: 栃木県日光市川俣874
 ■Tel: 0288-96-0316 ■全15室
 ■料金: 1泊2食 10,500円~
 (暖房代別途200円、消費税・入湯税込)

※料金は1室2名利用時の1名分、
 2022年9月時点の情報です



「八丁の湯」の露天風呂は混浴が3つと女性専用が1つ。写真は正面に滝を眺める混浴の「滝見の湯」。湯は透明だがタオル巻きOKなので混浴でも入りやすい



「八丁の湯」ヴィラロッジ八丁。木のぬくもりに癒やされる「ログハウスツイン」



「八丁の湯」夕食。いのしし鍋や日光のブランドニジマス「頂鱒(いただきます)」など、山の幸が堪能できる



① 山小屋がルーツの「加仁湯」には、見事な雪景色を楽しめる多様な湯船がある

② 「加仁湯」の温泉は青みがかった白濁の硫黄泉。3つの露天風呂のほか貸切風呂、川沿いの野天風呂など自然との距離感が魅力



①

②



野添ちかこの

温泉場
虎の巻

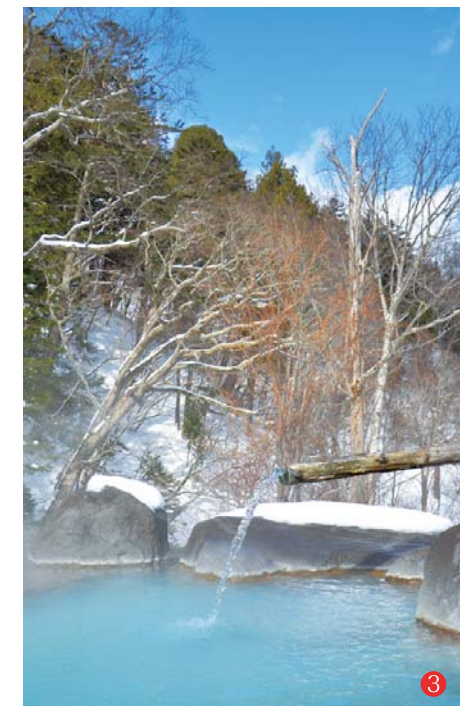
Vol.18 奥鬼怒温泉郷
(栃木県)

近いけど遠い
関東最奥の秘湯

日光の奥だから「奥日光」、鬼怒川の奥だから「奥鬼怒」。「奥」のつく場所には、いい温泉が湧いている。栃木県の北西部、福島県との県境に近い栗山郷の最奥。鬼怒川の源流部、ブナの原生林に囲まれた山間の地に、関東最奥の秘湯・奥鬼怒温泉郷がある。

雪道トレッキングで行く極上の湯

雪道のトレッキングに自信がない人も行けるのは、送迎車のある「加仁湯」①②か「八丁の湯」④⑤⑥である。東武鉄道・鬼怒川温泉駅からバスに乗るか、マイカーで女夫測駐車場へ。そこから宿泊者は専用の送迎バスに乗り換え、それぞれ約30分で到着する。「手白澤温泉」③と「日光澤温泉」にはジンジンと冷えた体に温泉が染み渡る。日光国立公園内、標高1300メートルにある山の宿は、秘湯感を味わうにはもってこい。こんもりとした雪が降り積もった露天風呂の風情といったら、桃源郷のようではあるまいか。奥鬼怒温泉郷の4湯はそれぞれ自家源泉をもっていて、どこも良質なかけ流しの温泉だから入り比べるのも楽しい。奥鬼怒温泉郷にたどり着くには少々覚悟がいる。国立公園内の自然環境を保護するために一般車両は通行禁止なので、宿の前までマイカーで乗り入れることができないからだ。雪道のトレッキングに自信がない人も行けるのは、送迎車のある「加仁湯」①②か「八丁の湯」④⑤⑥である。東武鉄道・鬼怒川温泉駅からバスに乗るか、マイカーで女夫測駐車場へ。そこから宿泊者は専用の送迎バスに乗り換え、それぞれ約30分で到着する。「手白澤温泉」③と「日光澤温泉」には



木の樋を伝って温泉が注がれる「手白澤温泉」の男湯。温泉は宿泊者のみが利用できる

③

プレゼント情報 加仁湯オリジナル 5名様 「トートバッグ」1個



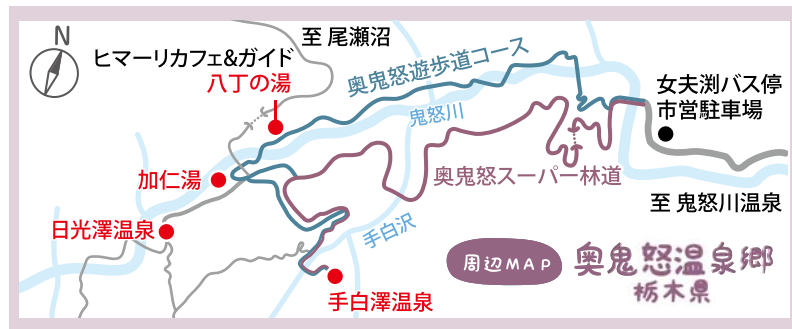
サイズ:31×34cm(持ち手部分除く)
 巻末のアンケートにご記入の上、応募ください

Profile

CHIKAKO NOZOE

旅行作家 野添ちかこ

観光の専門紙記者を経て、2006年からフリーで活動を開始。NIKKEIプラス1(日本経済新聞社)『湯の心旅』、旅の手帖(交通新聞社)『会いに行きたい温泉宿』などで温泉記事を連載中。著書に『旅行ライターになろう!』(青弓社)。3つ星温泉ソムリエ



立ち寄りスポット

女夫測駐車場には飲食店も売店もないため、
 昼食を食べるならココ!

ヒマールカフェ&ガイド

「八丁の湯」が食事処をカフェとして開放していて、宿泊客以外も利用できる。うどん・カレー・サンドイッチ・ホットサンド・ピザといった軽食のほか、コーヒーやワイン、地酒なども用意されている。

■営業時間: 12~14時(L.O.13時半)
 ■八丁の湯 Tel: 0288-96-0306

